

第3回世界水フォーラム 「自然再生」セッション

北海道 建設部 河川課計画係 北谷 啓幸^{※)}

平成15年3月16日から23日の期間、京都・大阪・滋賀の3会場において第3回世界水フォーラムが開催された。そのうち20日、21日に滋賀会場の天津プリンスホテルにおいて、玉井信行金沢大学教授を委員長とする「川の自然再生シンポジウム実行委員会」の主催による「流域における自然との共生と適応管理による川の自然再生」と題するセッションが開催された。

このセッションでは、平成14年9月に開催された国際シンポジウム「川の自然再生」～第3回世界水フォーラムに向けて～で議論され纏められた「川の自然再生に関するガイドライン」(案)の発信や各国の事例の紹介、自然再生の今後の取り組み、課題等について議論された。

20日、「淡海ホール」で行われたセッションでは、まず、玉井教授とラムサール条約流域イニシアティブ事務局代表のバリッシュ氏の対談形式の基調講演が行われ、「バーチャルウォーターフォーラム」における議論の経緯や「水の声」の結果、1月にクアラルンプールで開かれた河川自然再生に関する東アジア地域セミナーの結果などが紹介され、流域と川のつながり、流域の連続性重視の必要性、各国・各地域の連携の重要性が指摘された。

続いて、講談師の神田紅さんが登場し、これまでの議論の成果として纏めた「川の自然再生に関するガイドライン」(案)が日本の伝統芸能である講談で紹介され、大いに盛り上がりを見せた。

さらに当センターの松田理事長から、国際的な自然再生に関するネットワークの設立の第一歩とし

て、世界各地における河川の環境改善や自然再生に関する活動の事例を収集しホームページで紹介する取り組みから始めたいとお話があった。

その後、海外および日本の学識者、行政、NPO等からパネラーを迎え「川の自然再生を推進するにはだれが何をすべきなのか」というテーマでパネルディスカッションが行われ、行政とNPOのパートナーシップ、国際間の協力の重要性が改めて指摘された。

21日は会場を「鈴鹿」に移し、まず、海外の事例紹介が行われた。

デンマークからはヨーロッパ最大規模の蛇行復元と氾濫原再生を行っているスキャン川の事例やスペース・フォー・ザ・リバーの考え方、参加型の取り組みなどが紹介された。その後マレーシアからは水質に課題が生じてしまった河川の再生の取り組み、韓国からは自然再生に至る背景、ニーズ、手順、慶安(ヤンジエ)川における試験的取り組み、中国からは「自然から学び、自然とともに生きる」という考え方、黄河のデルタの管理について、日本からは釧路川や標津川、荒川等の事例を交えた日本の河川の特徴と再生の取り組みの考え方等が紹介された。

続いて、前日に紹介された「川の自然再生に関するガイドライン」(案)に関して会場の参加者を交えた討論会が行われた。

ここでは、人間との関係など普遍性や地域性を考慮したlandscapeの概念、流域よりも小さなスケールの取り組みなどスケールの階層性の重要性、計画のフィードバックの視点などについて積極的な意見が出された。

今後は、このセッションでの議論を踏まえ「川の自然再生に関するガイドライン」(案)をさらに充実させ、当センターのホームページや今後設立されるであろうネットワークを通じて世界に発信していくものである。



神田紅さんによる講談(ガイドラインの紹介)



ガイドラインに関する討論会

※) 前研究第四部 主任研究員